

日本人の顔

西欧ではラテン民族とゲルマン民族の骨格的特徴が顕著です。小説ではギリシヤ的鼻、ラテン的な顔立ちという表現が出てきます。日本人は背の高い人、低い人、顔の長い人、丸い人と千差万別であるのが特徴だと言われています。さて、奈良時代以降の骨を分類し、他のデータとも勘案してみると、「長い顔で長身」の時期と「丸顔で短身」の時期が約六百年でサイクルを作っていることが分かったそうです。つまり、ある時期、日本人の顔は、丸い方向に向かって進み、極限というか長い顔へ向かう兆しを見せるまで三百年かかるそうです。

す。その逆に、長い顔から丸顔に移る境界点まで三百年、計六百年になります。このサイクルは今日まで繰り返されているそうです。『文明と気候』を著したハンティントンの研究でも六十年ごとに大気は一巡し、更にその五倍、つまり三百年をピークにして、気温が変化していることが分かりました。暑いときは「長身で顔が長い」人間が多く、寒い時はその逆になることが分かったそうです。日本人の身長や顔は気候と密接な関係のあることが分かります。平安時代は日本全体が寒冷期のため短身で丸顔が多く、三百年後の足利時代になると長身で顔が長くなっています。一揆や暴動が寒冷期と一致しているのも分かります。

○十一月の言葉

損得を離れてこそ人間関係の素晴らしい景色を感じることができるのです。

○語彙力チェック

①「摂理」の正しい使い方は次のどれか。

A 神の摂理を疑ってはいけない。

B 自己の主體的な摂理を確立した

②「是非に」の慣用的な使い方として誤っているのはどれか。

A 是非にかかわらず

B 是非に及ばず C 是非にとつては

③「瀨踏み」の説明で誤っているのはどれか。

A 試してみること

B 背中を踏むこと

C 川の深さを測ること

④「思想や行動等が急進になること」をいう「センエイ化」は、どう書くか。

A 尖鋭 B 専鋭 C 先鋭 D 占鋭

（解答）①A ②C ③B ④C